

■主な半島資源

【歴史・文化資源】

名称	写真	所在地	特徴	備考
<p>ごしよがわらすえきかまあと 五所川原須恵器窯跡 (国指定文化財(史跡))</p>		五所川原市	<p>平安時代の我が国最北の須恵器窯跡であり、津軽平野北東縁の丘陵地帯、標高約35mから200m前後に立地し、東西約3.5km、南北約5kmの範囲に約50基が点在しています。窯跡は、原子支群、持子沢支群、前田野目支群などからなります。</p> <p>昭和42年以来、数度の発掘調査が行われ、平成9年、土地造成中に見つかった窯跡(犬走窯跡)の発掘調査が行われたことを契機に、平成10年から五所川原市教育委員会が窯跡の詳細な分布調査、発掘調査を継続して行ってきました。その結果、窯跡全体の操業時期はおおよそ9世紀後半から10世紀後半と考えられています。</p> <p>本窯跡で生産された須恵器は、青森県内のみならず、秋田県、岩手県の北部、北海道の道南・道央地方に多量に流通しており、さらには道東・道北まで達しており、この地域の手工業生産と流通を理解する上で極めて重要であります。(写真左:発掘された須恵器、写真右:持子沢窯跡完掘状況)</p>	<p>■交通アクセス JR五所川原駅から車で約20分</p> <p>■関連ウェブサイト 五所川原市ホームページ http://www.city.goshogawara.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 五所川原市教育委員会文化スポーツ課 青森県五所川原市金木町朝日山319-1 TEL:0173-35-2111、FAX:0173-53-2995</p>
<p>ときみなといせき 十三湊遺跡 (国指定文化財(史跡))</p>		五所川原市	<p>十三湊遺跡は「廻船式目(かいせんしきもく)」に記録される「三津七湊(さんしんしちそう)」の一つに数え挙げられ、中世に始まる典型的な港湾都市のひとつであり、日本海を舞台に北方交易の玄関口として、西の博多に対比されるような国際港として日本史上極めて重要な意味をもつ遺跡です。また、室町時代には安藤氏の嫡流が十三湊に本拠を置き、若狭国小浜の羽賀寺を再建するなど、北は北海道から南は若狭に至る日本海一帯を大きな活動範囲としていました。</p> <p>平成3～5年度の国立歴史民俗博物館の調査以来、県内外からの早期の遺跡解明の期待もあって、平成6年度から発掘調査に着手し、遺跡の実態解明と国史跡指定を目指した取り組みを行っており、その結果、平成17年に国史跡指定となりました。</p> <p>周辺には山王坊遺跡等の関連遺跡が豊富に分布し、これを取り巻く十三湖や日本海の環境・景観も優れています。</p>	<p>■交通アクセス 津軽鉄道中里駅から車で約30分</p> <p>■関連ウェブサイト 五所川原市ホームページ http://www.city.goshogawara.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 五所川原市教育委員会十三湊発掘調査室 青森県五所川原市相内349-1 TEL:0173-35-2111、FAX:0173-62-2115</p>
<p>そとめやち 五月女沓遺跡</p>		五所川原市	<p>市教育委員会では平成22年度から五月女沓遺跡(縄文時代後期末～晩期(約3,000～2,300年前))(市浦地区)の発掘調査を行っています。</p> <p>これまでの調査で、多量の遺物が出土しているほか、土偶を伴う祭祀遺構やマウンドを持つ土壌墓が多数検出され、縄文人骨も発見されています。日本海側における縄文時代の人骨の発見例は非常に少なく、極めて貴重な遺跡として注目されており、今後の調査で新たな人骨の発見はもちろん、遺跡の価値や魅力がさらに高まることが期待されています。</p> <p>また、遮光器土偶や造形美あふれる土器などで知られる亀ヶ岡遺跡(つがる市)と時期が重なることから、両遺跡の関連性も注目されています。</p>	<p>■交通アクセス 津軽鉄道中里駅から車で約30分</p> <p>■関連ウェブサイト 五所川原市ホームページ http://www.city.goshogawara.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 五所川原市教育委員会十三湊発掘調査室 青森県五所川原市相内349-1 TEL:0173-35-2111、FAX:0173-62-2115</p>
<p>むし 虫おくり</p>		五所川原市	<p>田植えを終えた時期に五穀豊穡と無病息災を祈願する「虫おくり」。木彫りの竜の頭に、稲わらの胴体で作られた「虫」を若者が担いで、囃子とともに村中を練り歩き、村はずれの一番高い木の枝に「虫」をかけ祈願します。津軽ではサナブリといわれ、例年田植えが終わった頃(6月上旬～中旬)に行われています。昔は津軽一円で行われていた民俗ですが、現在では、当市近郊の農村地域にその名残をとどめるに過ぎません。</p> <p>写真左:「相内の虫送り」…五所川原市相内地区の伝統行事であり、450年の歴史があり、津軽地方の虫送りの原型ともいわれています。平成14年2月に市無形文化財、平成23年4月には県無形民俗文化財に指定。</p> <p>写真右:「奥津軽虫と火祭り」…市中心地で開催される五所川原を代表する祭りの一つ。「虫送り」は、平成4年6月に市無形民俗文化財に指定。</p>	<p>■交通アクセス 津軽鉄道津軽中里駅から車で約20分</p> <p>■関連ウェブサイト 五所川原市ホームページ http://www.city.goshogawara.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 五所川原市役所経済部観光物産課 青森県五所川原市宇岩木町12 TEL:0173-35-2111、FAX:0173-35-3617</p>

■主な半島資源

【歴史・文化資源】

名称	写真	所在地	特徴	備考
最終氷期埋没林		つがる市	約2万8,000年前のエゾマツやアカエゾマツなどの針葉樹が1kmに渡り見ることが出来ます。厚さ約30cmの泥炭層に1m～2mの間隔で、数千本が並ぶ規模は世界最大級と言われ、最終氷期(約8万～2万年前)後期の厳寒期に、急激な環境の変化によって針葉樹が水没し、その根が腐らずに残ったものです。	<p>■交通アクセス JR木造駅から車で約20分</p> <p>■関連ウェブサイト つがる市ホームページ http://www.city.tsugaru.aomori.jp/</p> <p>◎お問い合わせ先 つがる市役所経済部商工観光課 青森県つがる市木造若緑61-1 TEL: 0173-42-2111、FAX: 0173-42-3069</p>
しゃこまどぐろ 遮光器土偶		つがる市	遮光器土偶は明治20年に亀ヶ岡遺跡から出土した土偶で、発見されて以来その優れた芸術性が高い評価を受け、昭和32年国指定重要文化財に指定されています。高さは約34.5cmあり、顔面部が北方民族の使用する遮光器(サングラス)に似ていることから、遮光器土偶と名づけられました。縄文の人々が信仰の対象物として利用したと考えられる遮光器土偶はその独特の風貌が太古のミステリアスさを感じさせます。遮光器土偶の現物は東京国立博物館にて保管されていますが、そのレプリカがつがる市縄文住居展示資料館(カルコ)に展示されています。 また、JR木造駅では巨大な遮光器土偶が出迎えてくれるなど、街のいたるところで遮光器土偶の姿を見ることができ、「しゃこちゃん」の愛称で市民からも愛されています。	<p>■交通アクセス JR木造駅から車で約7分</p> <p>■関連ウェブサイト つがるブランドホームページ http://www.tsugarubrand.jp/index.html</p> <p>◎お問い合わせ先 つがる市縄文住居展示資料館 青森県つがる市木造若緑59-1 TEL: 0173-42-6490 休館日: 月曜日、祝日の翌日、年末年始</p>
一本タモ		つがる市	推定樹齢は千年で周幹7.6m、高さ14mのヤチタモです。津軽藩二代目藩主信枚公が津軽平野の開拓をした時に、広大な湿原の目印になったとされています。ヤチタモの特性である幹のこぶは、婦人の乳房に似ていることから「乳の出る神様」として崇められ、子孫繁栄のシンボルとなっています。	<p>■交通アクセス JR木造駅から車で約20分</p> <p>■関連ウェブサイト つがる市ホームページ http://www.city.tsugaru.aomori.jp/</p> <p>◎お問い合わせ先 つがる市役所経済部商工観光課 青森県つがる市木造若緑61-1 TEL: 0173-42-2111、FAX: 0173-42-3069</p>
日本最古の りんごの木		つがる市	明治11年に譲り受けて植栽したもので、「紅絞」2本、「祝」1本。樹高7.4m、主幹周3mの巨木。通常りんごの木の寿命は20年ほどだが、樹齢100年を超えた現在も、1本の木から約30箱分のりんごが収穫され、販売もしているものです。また県の天然記念物にも指定されています。	<p>■交通アクセス JR五所川原駅から車で約20分</p> <p>■関連ウェブサイト つがる市ホームページ http://www.city.tsugaru.aomori.jp/</p> <p>◎お問い合わせ先 つがる市役所経済部商工観光課 青森県つがる市木造若緑61-1 TEL: 0173-42-2111、FAX: 0173-42-3069</p>

■主な半島資源

【歴史・文化資源】

名称	写真	所在地	特徴	備考
あらま いまべつ荒馬まつり (県無形文化財)		今別町	江戸時代発祥の神事と伝わる五穀豊穰を祈願する踊りで、ねぶた実行委員会、荒馬保存会、子供会、町内会による郷土芸能「荒馬」。毎年8月上旬に行われ、組みねぶた、扇ねぶたの山車とねぶたの衣装を身にまとったハネトが「荒馬」を囲み、ラッセラーの掛け声とともに、太鼓や笛の囃子に合わせて町を練り歩きます。 青森県無形文化財にも指定されています。	<ul style="list-style-type: none"> ■交通アクセス JR津軽線今別駅から車で約10分 ■関連ウェブサイト 今別町ホームページ http://www.town.imabetsu.lg.jp/top.php ◎お問い合わせ先 今別町役場企画課 青森県東津軽郡今別町大字今別字今別167 TEL:0174-35-3012、FAX:0174-35-2298
蓬田城址		蓬田村	小館遺跡の北側1Kmの所に、鬱蒼と茂る森に覆われた蓬田八幡宮があります。ここが大館ともいわれる蓬田城址。南北朝時代の豪族の居館だったと伝えられていますが、いつごろ、誰が築城したかは不明。天正13年(1585)油川城の落城を知った城主蓬田越前が南部に逃走したあと、津軽為信の支配下となっています。 落城してから蓬田城は静かに眠るだけでしたが、その沈黙を破るかのよう昭和50年に金沢大学と早稲田大学を中心とする発掘調査が行われました。出土品は縄文時代の土器や石器、土師器、須恵器、擦文土器、中国産の白磁、青磁。鉄製品として、鋤、短刀、鉞が発見されています。大きく深い堀は浪岡城にも匹敵する規模といわれ、空白といわれる中世津軽の歴史を物語るロマン漂う蓬田城です。	<ul style="list-style-type: none"> ■関連ウェブサイト 蓬田村ホームページ http://www.vill.yomogita.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 蓬田村教育委員会 青森県東津軽郡蓬田村大字郷沢字浜田136番地76 TEL:0174-31-3111、FAX:0174-31-3112
よしつねとかいでんせつ 義経渡海伝説		外ヶ浜町	岩手県の衣川で最期を遂げたと伝えられる源義経が津軽海峡を渡り、北海道へ。謎と伝説を訪ねる外ヶ浜の旅。それが、義経渡海伝説。ここ外ヶ浜町三厩の地には、義経渡海伝説に由来する見どころが多数あります。 義経が海を渡る竜馬三頭が繋がれていたと伝えられる三つの穴が開いた岩、厩(馬屋)の石、【厩石】。義経が蝦夷地へ向かう時、無事に渡れるようにと、自分の甲を置いていったと伝えられる【甲岩】。義経の鎧ほしさに風を起こす島の神に、鎧を捧げて海を渡ったと伝えられる【鎧島】。厩石で竜馬を得た義経が、帯を締め直したと伝えられる龍飛崎・帯島【帯島】。義経伝説のロマンが漂います。(写真:龍馬山 義経寺)	<ul style="list-style-type: none"> ■交通アクセス(龍馬山 義経寺) JR津軽線三厩駅から車で約5分 ■関連ウェブサイト 外ヶ浜町ホームページ http://www.town.sotogahama.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 外ヶ浜町役場産業観光課 青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田高銅屋44-2 TEL:0174-31-1228、FAX:0174-31-1229
かんらんざん 観瀾山		外ヶ浜町	陸奥湾を一望できる、外ヶ浜蟹田のシンボルの丘。作家・太宰治の文学碑をはじめ、地元川柳結社「おかしょうき川柳社」の祖・杉野土佐一や川柳史に偉大な足跡を残した作家のひとり川上三太郎の句碑があります。トップマストから徒歩10分、国道280号線を渡ってすぐ登頂できます。	<ul style="list-style-type: none"> ■交通アクセス JR津軽線蟹田駅から車で約10分 ■関連ウェブサイト 外ヶ浜町ホームページ http://www.town.sotogahama.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 外ヶ浜町役場産業観光課 青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田高銅屋44-2 TEL:0174-31-1228、FAX:0174-31-1229

■主な半島資源

【歴史・文化資源】

名称	写真	所在地	特徴	備考
大山ふるさと資料館		外ヶ浜町	大山ふるさと資料館は、平成11年3月に統合のために廃校となった「大山小学校」を利用して、平成13年4月に開館しました。 古い校舎の雰囲気と懐かしい道具、また遺跡から出土した土器や石器を展示しています。 特に、日本最古の土器片が出土した「大平山元Ⅰ遺跡」の出土品を展示しています。	<ul style="list-style-type: none"> ■交通アクセス 青森市から車で約50分 ■関連ウェブサイト 外ヶ浜町ホームページ http://www.town.sotogahama.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 外ヶ浜町教育委員会 青森県東津軽郡外ヶ浜町大字高銅屋44-2 TEL:0174-31-1233、FAX 0174-31-1238 ※休館日 月曜日(祝日の場合その翌日)、年末年始
しらはちまんぐうたいさい 白八幡宮大祭		鱒ヶ沢町	これは300年以上の歴史がある祭りで、藩政時代に藩の御用港として栄えた当時の鱒ヶ沢の面影を残す古式ゆかしい伝統行事です。御神輿行列は町の無形文化財に指定されています。大祭は4年に1度のサイクルで開催されています。また、大祭は、京都の時代まつりと祇園まつりにとてもよく似ていることから、「津軽の京まつり」と称され、それは北前船交易によって上方文化が移入し定着した名残として考えられています。	<ul style="list-style-type: none"> ■関連ウェブサイト 鱒ヶ沢町ホームページ http://www.town.ajigasawa.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 白八幡宮大祭本部・事務局(鱒ヶ沢町役場内) 青森県西津軽郡鱒ヶ沢町大字本町209-2 TEL:0173-72-2111、FAX:0173-72-2374
みつのぶこうびょうじよ 光信公御廟所		鱒ヶ沢町	大永6年(1526)に没した光信公を葬った種里城址の一郭にある廟所(びょうじよ)。遺言により甲冑を着して大刀を帯び、武将の威儀を正した生前そのままの姿で葬ったといわれています。不思議なことに今日にいたるまで、光信公の廟所には一本の雑草も生えていません。	<ul style="list-style-type: none"> ■交通アクセス JR鱒ヶ沢駅からバスで約20分 ■関連ウェブサイト 鱒ヶ沢町ホームページ http://www.town.ajigasawa.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 鱒ヶ沢町教育委員会教育課 青森県西津軽郡鱒ヶ沢町大字本町209-2 TEL:0173-72-2111、FAX:0173-72-2374
円覚寺		深浦町	円覚寺は大同二丁亥年(807)、征夷大將軍坂上田村麻呂が蝦夷東征のときに、厩戸皇子作の十一面観世音菩薩を安置し、観音堂を建立したのに始まると伝えられています。その時、田村麻呂が兜の中に納めていたと伝えられている影顯石守仏が、今なお、円覚寺に保存されています。他にも数多くの文化財が保管されています。	<ul style="list-style-type: none"> ■交通アクセス JR深浦駅から徒歩で約20分 ■関連ウェブサイト 深浦町ホームページ http://www.town.fukaura.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 円覚寺 青森県西津軽郡深浦町大字深浦字浜町275 TEL0173-74-2029

■主な半島資源

【歴史・文化資源】

名称	写真	所在地	特徴	備考
せきこひぐん 関の古碑群 (県指定記念物史跡)		深浦町	南北朝に造立された42基の板碑からなっています。板碑とは石で造られた塔婆で、造立の目的は故人の供養、造立者の来世での極楽往生を願う「逆修」があります。紀年銘は28基あり、最も古いものが歴応3年(1340)、最も新しいものが応永8年(1401)と判読されています。背後の折曽の関とともに安藤氏に関連する史跡です。	<ul style="list-style-type: none"> ■交通アクセス JR北金ヶ沢駅から徒歩で約15分 ■関連ウェブサイト 深浦町ホームページ http://www.town.fukaura.lg.jp/ ◎お問い合わせ先 深浦町教育委員会 青森県西津軽郡深浦町大字深浦字苗代沢84-2 TEL:0173-74-2111、FAX:0173-74-4415
皇帝の森		板柳町	板柳町出身で、満州国皇帝溥儀の侍従長を務めた故工藤忠(本名・鉄三郎)の生家を改修した資料館です。これまで町郷土資料館に展示されていた衣類、書、写真などのほか、家にあった関係資料あわせて約60点を展示しています。	<ul style="list-style-type: none"> ■交通アクセス JR板柳駅から車で約15分 ■関連ウェブサイト 青森観光情報サイト「アプティネット」 http://www.aptnet.jp/index.html ◎お問い合わせ先 皇帝の森 青森県北津軽郡板柳町大字小幡字柳川186 TEL:0172-73-3725
鶴の里ふるさと館		鶴田町	平成7年に後中野集落にあった茅葺き民家(川村家:移築時築120年)を現在の場所へ移築したものです。極力使われていた材料を使用し、内部も昔のままに座敷、居間、土間、馬小屋、かまどなどが再現され、当時の生活の様子を後世に伝える役割を果たしています。	<ul style="list-style-type: none"> ■交通アクセス JR陸奥鶴田駅から車で約15分 ■関連ウェブサイト 鶴田町ホームページ http://www.town.tsuruta.aomori.jp/ ◎お問い合わせ先 鶴田町役場産業観光課 青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字早瀬200-1 TEL:0173-22-2111、FAX:0173-22-6007
丹頂鶴自然公園		鶴田町	江戸時代の頃数多くの鶴が飛来したという鶴田町。平成4年に「生きた丹頂鶴誘致」の声が高まり、平成5年に中国黒龍江省より2羽を譲り受け、平成9年にはロシア連邦アムール州よりつがいを受け譲り受け飼育、現在では当町で出生したものや多摩動物公園から借受している丹頂鶴が飼育されています。	<ul style="list-style-type: none"> ■交通アクセス JR陸奥鶴田駅から車で約15分 ■関連ウェブサイト 鶴田町ホームページ http://www.town.tsuruta.aomori.jp/ ◎お問い合わせ先 鶴田町役場産業観光課 青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字早瀬200-1 TEL:0173-22-2111、FAX:0173-22-6007

■主な半島資源

【歴史・文化資源】

名称	写真	所在地	特徴	備考
中泊町博物館		中泊町	自然、歴史、民族、産業の幅広い分野を網羅する中泊町博物館は大きく分けて、エントランス、インフォメーション、特別展示室、常設展示室で構成されています。そこにはいずれも、体験できる装置を配置して関心を引き起こし、新たな文化創造へと発展できるように配慮されています。その一つが、エントランスに設置されたディーゼル機関車の復元モデルです。日本初の森林鉄道「津軽森林鉄道」を駆けた颯爽とした姿は、まさに博物館のシンボルにふさわしいものです。また、情報や資料が検索できるコンピューターによるガイドシステムも備わっています。	<p>■交通アクセス 津軽鉄道津軽中里駅から徒歩で約10分</p> <p>■関連ウェブサイト 中泊町博物館ホームページ http://www2.town.nakadomari.aomori.jp/hakubutsukan/</p> <p>◎お問い合わせ先 中泊町博物館(中泊町総合文化センター内) 青森県中泊町中里字紅葉坂210 TEL:0173-69-1111、FAX:0173-69-1115</p>
津軽の林業用具 (国登録有形民俗文化財)		中泊町	この文化財は、林業の生業を知る貴重な文化財です。平成24年に国の登録有形民俗文化財となりました。 体系的に集められた資料は、町博物館が所蔵し、その点数は353点。木を切るのこぎりや、作業を行う人が着用した簍(ケラ)、作業員の携行用具であるコダシ、木材を運んだソリなど、木を切る道具だけでなく、まさになりわいとしての林業が分かるような充実ぶりです。	<p>■交通アクセス 津軽鉄道津軽中里駅から徒歩で約10分</p> <p>■関連ウェブサイト 中泊町博物館ホームページ http://www2.town.nakadomari.aomori.jp/hakubutsukan/</p> <p>◎お問い合わせ先 中泊町博物館(中泊町総合文化センター内) 青森県中泊町中里字紅葉坂210 TEL:0173-69-1111、FAX:0173-69-1115</p>
小説「津軽」の像 記念館		中泊町	太宰治の復元の声やビデオシアター、小泊出身で太宰の乳母である「タケ」が太宰との思い出を語る映像など、太宰や小説「津軽」にまつわるものが展示されております。	<p>■交通アクセス 津軽鉄道津軽中里駅から車で約40分</p> <p>■関連ウェブサイト 中泊町ホームページ http://www.town.nakadomari.lg.jp/</p> <p>◎お問い合わせ先 小説「津軽」の像記念館 青森県北津軽郡中泊町大字小泊字砂山1080-1 TEL:0173-64-3588</p>